

企業ニュース ビックカメラ

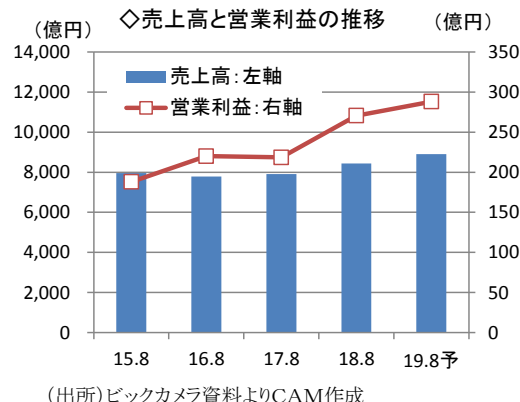
(東証1部：3048) <https://www.biccamera.co.jp/ir/>

作成者：奥村義弘

ターミナル駅周辺で大型店を展開

1978年創業の大手家電量販店。当社単体は都市部の駅前に店舗展開。子会社にロードサイド型店舗を運営するコジマ（7513）、リユースやサポートサービスを行うソフマップ、日本BS放送（9414）などを持つ。店舗数は、ビックカメラ40店、コジマ141店、ソフマップ22店、ビックアウトレット4店（18.8期末時点）。

18.8期連結の品目別売上高構成比は、カメラやテレビなどの音響映像商品16.4%、冷蔵庫や洗濯機などの家庭電化商品30.9%、PCや携帯などの情報通信機器商品31.3%、ゲーム・玩具などのその他商品が19.7%、物品販売以外のその他事業が1.7%。



インバウンドの取り込みやネット通販で先行

18.8期の連結業績は、売上高が8,440億円、前期比7%増、営業利益が271億円、同24%増。ビックカメラ単体の既存店売上高は前期比4%増と堅調。売上げ面ではインターネット通販やインバウンド（免税）が高伸長した。子会社のコジマも旗艦店を中心に既存店売上高が同5%増と好調。インターネット通販が同様に高伸長した。その他ではラネット（モバイル端末の販売等）が前期比10%増、日本BSが同4%増、ソフマップが同14%減。営業利益ではコジマの売上高総利益率が27.1%と前期比0.3ポイント改善、ソフマップも黒字転換し課題事業の収益改善も進んだ。

19.8期の通期会社計画は、売上高が8,900億円、前期比5%増、営業利益が288億円、同6%増。規模が拡大するインターネット通販と実店舗との融合を図るオムニチャネルを推進する。五感で感じられる価値や経験の提案に力を入れる。商品面では他社との差異化が図れるPB（プライベートブランド）比率を上げる。インバウンドでは豊富な品ぞろえでワンストップショッピングを提供、先行者メリットを生かした利益拡大を目指す。10月には新たなEC物流センターが大阪で稼働した。西日本の配送サービス向上やラストワンマイルのコスト削減を狙う。

[株価動向・投資判断]

不採算事業の整理が進捗している。成長性の高いEC売上やインバウンドへの取り組みで先行する企業として注目できよう。

<3048 ビックカメラ 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.8	790,639 (1)	21,854 (▲ 1)	24,364 (6)	13,505 (13)	74.3	12.00
18.8	844,029 (7)	27,055 (24)	29,241 (20)	17,122 (27)	93.7	20.00
19.8 予	890,000 (5)	28,800 (6)	30,600 (5)	17,800 (4)	99.8	20.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/11/16)	1,561 円
年初来高値(高値日)	1,942 円(18/4/11)
同 安値(安値日)	1,390 円(18/8/21)
予想 P E R (19.8 予)	15.6 倍
1株株主資本(PBR算出用)	728.2 円
P B R	2.14 倍
予想配当利回り	1.28 %
(1株当たり配当金20.00円)	
R O E (18.8)	13.6 %
発行済み株式数	18,815 万株